東大駒場友の会

会報第43号

二〇二四年度教養学部長との懇親会について

鳥井寿夫

四月一三日（土）、東京大学教養学部と東大駒場友の会の共催で「新入生保護者と教養学部長の懇親会」が開催されました。今年度入会した新入生保護者のみならず、キャンパスに来場することができなかった二〇二〇～二〇二三年度入学の在校生の保護者にも参加枠を拡げ、一九二名の方から申し込みをいただきました。

九〇〇番教室にて、駒場の大学院生によるパイプオルガンの演奏後、木畑会長挨拶、数理科学研究科長の平地健吾先生のお話に続き、教養学部長真船文隆先生のご講演「駒場の魅力」、事務部長と六課長の紹介、学生と関わりの深い進学情報センター、学生相談所、SafeSpace、ハラスメント相談所からの説明、金曜特別講座の案内を行いました。

その後、来場参加者は二八名の教員の引率でキャンパス内を巡り、駒場キャンパスの見どころや研究室などを豊富なエピソードとともに楽しんでいただきました。キャンパスツアー後は五年ぶりに生協食堂二階にて昼食パーティーを開催し、真船教養学部長をはじめとした教授陣と新入生保護者が交流しました。吹奏楽部の演奏や小川桂一郎名誉教授のリードによる「ただひとつ」の合唱は会場を盛り上げ、記念撮影も行い、ご参加いただいた保護者にも満足いただける会となりました。

お越しいただいた保護者の皆さま、快く協力を引き受けていただいた教職員の皆さまに、この場を借りて御礼申し上げます。

（東大駒場友の会事務局長）

社員総会・理事会と活動報告会について

今回は対面とオンラインとのハイブリッド方式での「社員総会・理事会」を六月八日（土）に開催し、昨年度の事業・会計の報告と今年度の活動計画と予算について役員による審議が行われました。

会員の皆様に向けての「活動報告会」は五年ぶりに対面方式とし、「活動報告会」後は立食パーティー形式の「懇親会」を行い、会員の皆様と当会役員や運営に携わる現役教員とが語らう機会を設けました。

今年度も教養学部との連携を一層強化し、駒場の教育研究活動への関心を高める活動を推進してまいります。引き続きご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

社員総会での審議を受け、理事会で協議・承認された二〇二三年度事業・会計報告と二〇二四年度事業計画・予算についてここにご報告します。（当会WEBサイトに詳細を掲載しております）

二〇二三年度事業報告

Ⅰ　懇談会・講演会・演奏会などの開催

一　新入生保護者と教養学部長との懇談会（四月十五日）

二　味覚のアトリエ@駒場（一一月二日）

三　秋の講演会（一一月一八日）

四　学事カレンダーの製作

五　音楽演奏会開催への協力

六　金曜特別講座（受講案内）

Ⅱ　寄付事業

「学生のための寄付」を実施し、会員有志や新入生保護者合わせて述べ三四〇名から合計二、八二〇、〇〇〇円のご協力をいただいた。主な寄付先と使途は以下の通り。駒場図書館学生用図書（九九九、九七〇円）、駒場博物館（特別展広報活動の支援　八八二、八二七円）、駒場祭協賛（四〇万円）、五月祭協賛（二三万円）、学生団体への支援（五団体へ合計九九六、二二七円）、その他学生団体、学部支援（二二四、七四五）、寄付支出の合計は三、七三三、七六九円となった。

Ⅲ　広報活動

一　会報第四一号（二〇二三年九月一五日）、第四二号（二〇二四年三月一五日）

二　WEBサイト
https://tomonokai.c.u-tokyo.ac.jp/

Ⅳ　会員数

二〇二四年三月三一日（期末）終身会員一八四名、通常会員三七〇名、会友会員一、三二二名（合計一、八七六名）。一高同窓会会員一三〇名、東高同窓会会員五二名。

Ⅴ　理事会・社員総会や会議の開催

一　理事会・総会の開催（六月一〇日）

二　事務局運営会議の定期開催（六月一日、十月一六日、一月一五日、四月八日）

※すべてオンライン形式で開催

二〇二四年度事業計画

Ⅰ　懇談会・講演会・演奏会などの開催

一　新入生保護者と教養学部長との懇談会（四月一三日に現地開催にて実施済）

二　講演会等の開催　主催講演会の開催はじめ教養学部や研究室主催の社会連携文化行事への協力

三　「味覚のアトリエ@駒場」（ルヴェソンヴェール共催）

四　「学事カレンダー」の製作

五　音楽活動の支援（教養学部オルガン委員会、ピアノ委員会主催の演奏会を共催・協賛する）

六　金曜特別講座への協力

Ⅱ　寄付事業

「学生のための寄付」として寄せられる寄付金を活用し、教養学部および駒場祭をはじめとした学生の自主活動への寄付、教員からの事業提案への支援を継続し、駒場キャンパス、三鷹国際学生宿舎等の教育研究の環境の向上と多様化に協力する。

Ⅲ　広報活動

一　会報第四三号、第四四号

二　WEBサイト の活用

https://tomonokai.c.u-tokyo.ac.jp/

Ⅳ　理事会・社員総会や各種委員会の開催

一　理事会・社員総会・活動報告会・会員懇談会の開催（六月八日実施済）

二　例事務局運営会議の開催（年四回）

寄付対象活動報告

東大駒場友の会の活動と言えば、新入生保護者の皆さまと学部長との懇談会や、研究者・卒業生を招いての講演会、学生向けの食育プログラムの推進が頭に浮かぶことでしょう。このような目に見える交流活動とは違い、「縁の下の力持ち」としての学内のさまざまな活動への支援事業も東大駒場友の会は行っています。教養学部や学生団体の活動等への寄付、学術や文化・スポーツの企画への支援がそれですが、本号ではこのような寄付対象となっている五つの活動を紹介・報告いたします。

一つ目の報告は、初年次ゼミナール文科の授業が企画した展覧会見学への支援で、日本近代文学館で開催されていた「芥川龍之介展―文庫目録増補改訂版刊行記念―」の見学についての報告です。二つ目の報告は、東大むら塾による「むらおこしコンテストinふっつ二〇二四」開催報告です。東大むら塾は、福島県飯舘村と千葉県富津市を中心に「農業×地域おこし」をテーマに活動している東京大学の学生団体です。三つ目の報告は、iGEM UTokyo による「iGEM UTokyo 活動報告」です。iGEM UTokyo は、合成生物学の世界大会 iGEM に出場する東京大学のチームで、実験やシミュレーションを行ったり、専門家のアドバイスを得ながらプロジェクトを作り上げていく活動を行っています。四つ目の報告は、やはり学生団体の TEDxUTokyo による「TEDxUTokyo 活動報告」です。TED（テッド）という名称は、テクノロジー、エンターテインメント、デザインが一体となって未来を形作るという考えに由来しますが、TEDxUTokyo とは、大学と TED がコラボレーションした TEDxUniversity です。五つ目の報告は、教養学部オルガン委員会による「オルガン委員会委員長代理体験記――駒場のパイプオルガンと演奏会のご紹介」です。駒場キャンパスの人気の高い文化活動の一つにオルガンコンサートがありますが、この演奏会を主催しているのが教養学部オルガン委員会です。このオルガン委員会の今年度委員長代理を務められた永井久美子先生が、その体験と今年度の演奏会の報告をしてくださいます。いずれも教養学部・総合文化研究科の学生や教職員が多く参加しているものです。

本号では駒場キャンパスの学術活動、学生団体、文化活動を取り上げますが、今後もこのような寄付活動の成果を報告いたしますのでご期待ください。

初年次ゼミナール文科展覧会見学について

劉潤晶

東大駒場友の会会員の皆さま、はじめまして。総合文化研究科博士課程一年の劉潤晶と申します。二〇二四年度Sセメスターの初年次ゼミナール文科において、教養学部の永井久美子先生が担当されたクラスのTAを務めました。初年次ゼミナール文科は、アカデミックスキルを身に付けることを目的とした授業であり、東京大学の文科の一年全員が受講します。永井先生のクラスは、「展覧会の未来を考える」という題目のもと、各種ミュージアムの現状と課題、今後のあるべき形などを自由に論じる内容でした。気になる展覧会をひとつずつ選び、分析や議論を通じて、最終的には小論文を執筆する授業で、本年度は二四名が履修しました。

授業では展覧会見学の機会も設けられており、友の会より観覧料のご支援を賜り、駒場にある日本近代文学館で開催されていた「芥川龍之介展―文庫目録増補改訂版刊行記念―」を去る五月一日にクラス全員で観覧しました。寄付金の恩恵により貴重な機会をいただきましたこと、見学会参加者を代表して、お礼を申し上げます。

本展の主役は芥川龍之介文庫であり、彼の旧蔵書などの資料が多く展示されていました。芥川の遺稿のひとつである「歯車」の原稿の傍らには、melancholy の頁の折られた愛用の英英辞典が並べられ、「西方の人」の手入れ稿には、旧蔵書の『サロメ』や遺品の聖書が並置されていました。執筆にあたって参考資料をひいた芥川の指先すら、時を超えて、脳裏に浮かんでくるようでした。

写真提供：公益財団法人日本近代文学館

芥川といえば、東京大学（当時は旧制第一高等学校および東京帝国大学）のOBであり、教科書にも載る「羅生門」をはじめ、広く知られた著作も多い作家です。しかしどのように作品が執筆されたのかは読者にとって意外と縁遠く、今年で没後九七年となる文豪ともなれば、距離を感じていた学生も多かったようです。今回の展示で作家のインスピレーションの源や知の体系に接し、芥川のイメージが変わった、試行錯誤の跡が伝わってきた、一人の人間として身近に感じた、といった情動豊かな感想が参加学生から多く聞かれました。

展示観覧前には、実父が長州出身の実業家、母方が幕府役人の家系であった芥川の生い立ちなどについて、日本近代文学館事務局の富樫瓔子氏に解説もしていただきました。学生たちは、ご説明に耳を傾け、展示物を覗き込み、解説文を読み込み、メモを取りながら、時間いっぱい熱心に見学をしておりました。

今回、全員で同じ展覧会を見学したことにより、フィールドワークの手法を学び、展覧会を分析する上での素地を養うことができたのではないかと思います。その後の個別発表でも、鋭い着眼点や、丁寧な議論、力のこもっ

た分析など、目を見張る内容が多く見られました。TAとして非常に感慨深く、見学会での経験が大いに役立った証左ではないかと推察します。学生たちの勉学に大いに資する機会をいただけましたこと、改めて、東大駒場友の会会員の皆さまに深謝いたします。

（総合文化研究科広域科学専攻）

むらおこしコンテスト in ふっつ二〇二四開催報告

葛原颯馬

私たち東大むら塾は二〇二四年二月一四日（水）～一七日（土）の四日間において、千葉県富津市天羽地区を舞台に「むらおこしコンテストinふっつ二〇二四」を実施いたしました。全国から一四名の参加学生が集い、五つのチームに分かれてプランを競いました。

特徴的なプログラムについて幾つかご紹介いたします。一日目と二日目に開催された住民インタビューでは地域の公民館・集会所に地域の方々と参加学生が集い、食事を囲みながら二時間以上かけて地域の現状や問題点について熱く語り合いました。二日目には地域の区長さん方に連れられて地区巡りを行いました。観光客も知るような場所から地域の人しか知らない隠れた名所まで、視覚的に捉えられる地域の問題を伺いながら散策しました。最終日には、富津市長をはじめ、議員の方々、区長の方々、多くの地域住民をホールにお招きし、四日間考え抜いたプランの発表会を行いました。多くのプランが住民インタビューや地区巡りで得られた知見や課題意識を踏まえた住民による実行可能性が高い事業を提案するものでした。最優秀賞に輝いたプランは、〝憩いの寄せ書きベンチを設置する〟プランです。寄せ書きベンチの設置によって地域住民同士のコミュニケーションの場を増加させる他、観光客の徒歩での移動を促進し交通渋滞の解消も視野に入れるなど、多彩な観点に基づいた素晴らしいプランでした。

本コンテストで重視したものの一つにこの「実行可能性」が挙げられます。私たちが本コンテストで提案したものが地域で活用されるためには、実行しやすいことが条件として求められます。これを参加学生に強く意識してもらうために採点基準に「実行可能性」の項目を含め、さらに住民の視点を理解するWSを行うなどコンテンツの充実にも努めました。

コンテストを通じて、参加学生に普段は触れることのない地域での生活に触れていただき、課題解決の方法を探る機会を提供することができました。同時に地域活性化に興味がある学生に富津市を知っていただけました。さらに、住民インタビューなどで地域の方同士が集う場所を創出し、コロナ禍で薄れてしまった地域の対話の場を提供できたのではないかと考えています。

今後も地域を拠点とする団体として、地域の方とコミュニケーションをとり、ともに地域について考えていける機会をコンテストの場に限らず創出していくことができればと思っています。

（文学部人文学科）

iGEM UTokyo活動報告

濱崎匠

iGEM UTokyoは合成生物学の世界大会iGEMに出場する東大発のチームです。合成生物学とは、遺伝子を人工的に設計し、有用な物質を作らることや、目的に沿った生物を創造する生物学の一分野です。iGEMでは、合成生物学の力で社会課題を解決するプロジェクトを提案し、実際に実験を行い、最終的に成果を発表する一連の過程が評価されます。実験に限らず、専門家やステークホルダーとの話し合い、一般市民への生物学の教育活動、アントレプレナーシップなど、多岐にわたる活動が存在します。

団体内で実験やシミュレーションなどを分業し、週に一度の対面ミーティングを通して全体に進捗を報告します。対面ミーティングで自由に意見を出し合い、プロジェクトをブラッシュアップしていきます。学年や所属によらず、多様な能力を持つチームメンバーからの意見を取り入れ、毎週 時間の許す限り議論しています。実験は医科学研究所分子遺伝医学分野 岡田尚巳研で、ドライモデリングやシミュレーションは理学部物理学科 古澤力研で指導していただいています。実験計画を立てるところからデータを得るところまで、研究の主体は私たちですが、研究室の方々に技術面や考察面でご協力していただいています。

また、後進の育成にも力を入れています。情報収集や実験技術に加え、ステークホルダーの選定方法やプロジェクト全体の進行方法など団体内で蓄積された知識を後輩たちに伝えています。私たちは一、二年生が主体なため人員の入れ替わりが激しいですが、団体が長く存続できるよう努めています。

本年度は涙液中に含まれる緑内障特異的なmRNAを用いて、緑内障に罹患しているかどうかを家庭で検知するシステムの開発を目標としています。微少量のmRNAを増幅し、定量すること自体は研究されているトピックではありますが、家庭で使える信頼性の高いものは未だ存在しません。そこで私たちは、家庭でも使えることを意識し、温度変化がない核酸増幅法によってmRNAを増幅し、定量結果が一目見て判断できるよう側方流動定量技術を応用することにしました。このシステムでは疾患特異的な核酸を利用して、緑内障以外の疾患の検知にも広く応用できます。また、ランダムプライマーを利用することで、環境DNAやRNAの検出にも利用できると考えられます。

現在はプロジェクトに関連する専門家の方に話を聞き、実験やモデリングを進めています。そのほかにも、今年度は市民への教育活動にも力を入れます、中学校や高校に訪問し生物学を広めるほか、大学生と合成生物学に

関する議論を交わすことを計画しています。

上記の活動を通し、大会で好成績を収めることはもちろん、論文化を目指しています。また、iGEM UTokyo での活動をもとに、科学者として活動する上での議論の仕方や実験手法を体得したいです。

（理学部地球惑星物理学科）

TEDxUTokyo活動報告

若海 翼

カンファレンスイベント TEDxUTokyo を運営しています。TED の公式ライセンスを受け、Ideas Worth Spreading の精神に則りながら、広めるべき価値のあるアイデアの発信などを目的とし、小規模イベント「TEDxUTokyoSalon」と、メインイベント「TEDxUTokyo」を軸として活動しています。TEDxUTokyo は、日本で最初の TEDxUniversity として二〇一二年より活動を行っております。この学生主導のイベントは、TED の精神を受け継ぎ、価値あるアイデアを共有し、人々の間にインスピレーションを広めることを目指しています。

TEDxUTokyo の活動は多岐にわたり、様々なバックグラウンドを持つ学生が集まり、各自の強みを生かして活動しています。TEDxUTokyo の組織は、主に On-stage、Off-stage、Branding、Logistics、Partner、Staff などの複数の部署に分かれています。各部署のメンバーは、それぞれの部署に与えられた使命を果たしながらイベントの成功に向けて協力しています。

On-stage 部署は、スピーカーの選定やスピーチの内容調整などを担当しています。毎年、多様な分野から優れたスピーカーを招き、最新の研究成果や革新的なアイデアを共有します。

Off-stage 部署は、トーク以外のイベント全体の運営管理を担い、当日のスムーズな進行を支えます。Branding 部署は、イベントのビジュアルやプロモーション活動を担当し、視覚的に魅力的なコンテンツを提供します。Logistics 部署は、会場の設営や運営、機材の手配など、物理的なサポートを行います。Partner 部署は、スポンサー企業との連携を図り、資金調達や協賛活動を進めます。Staff 部署は、団体メンバーのサポートやイベント当日のボランティアスタッフの調整・管理を行います。

TEDxUTokyo は年間を通じて様々なイベントを開催しています。今年のサロンイベントは11月に開催されることが予定されており、多くの来場者を見込んでいます。このサロンイベントでは、ワークショップやディスカッションを通じて、参加者同士がより深く交流し、互いのアイデアを共有することができます。過去のイベントでは、医療分野の専門家からAI研究者まで、多様なスピーカーが登壇し、最新の研究や革新的なアイデアを紹介しました。

参加者からは「非常に刺激的で、学びの多い時間を過ごせた」という声が多く寄せられました。特に、初めて TEDx に参加した学生は「自分の視野が広がり、新たなチャレンジに挑む勇気をもらった」と感想を述べています。このように、TEDxUTokyo の活動は、個々の参加者の成長にも大きな影響を与えています。

今後も TEDxUTokyo は、価値あるアイデアを共有し続けることで、社会にポジティブな影響を与えていくことを目指しています。私たちの活動を通じて、多くの人々が新たな視点やインスピレーションを得ることを願っています。参加者一人一人が主体的に関わることで、生まれるシナジーが大きな力となり、未来に向けた変革をもたらすことを信じています。

（教養学部理科一類）

オルガン委員会委員長代理体験記——駒場のパイプオルガンと演奏会のご紹介

永井久美子

年に数回、定期的に開催されてきた九〇〇番講堂のパイプオルガンの演奏会が、コロナ禍によるブランクののち復活しています。二〇二四年六月二四日に開催した第一四六回演奏会では、高橋博子氏をお迎えしました。高橋氏は、東京藝術大学ならびに同大学院、そしてドイツ国立ハンブルク音楽演劇大学で学ばれた気鋭であり、現在、国内外でご活躍中の方です。演奏会のチラシを各所で配布したところ、進学校である渋谷教育学園幕張高等学校のご出身であること、人気アニメの劇場版でパイプオルガンの演奏を担当されていたことなどが記されたプロフィールに興味を持つ方も多くいらっしゃいました。

今回の演奏会は、「平和への祈り——沖縄戦慰霊の日を覚えて——」という題を高橋氏が考え、選曲もしてくださいました。開催時期を意識しただけでなく、旧知のご友人が若くして突然亡くなり、命について考えたことがテーマ選定の背後にあったと、演奏会の中で話してくださいました。学内外から約数三五〇名もの参加者が集った講堂では、演奏だけでなく、そのお話の内容にも大きな拍手が寄せられました。

山田耕筰に師事し、ドイツ留学ののち東京霊南坂教会のオルガニストを長く務めた大中寅二が作曲した「前奏曲 ヘ長調（静かに平和を祷る心）」や、生前人気を博しながら一度忘れ去られた作曲家ヨーゼフ・ラインベルガーによるソナタ『平和の祭典のために』より「終曲」など九曲の演目の中には、「埴生の宿」のメロディが用いられた聖公会聖歌四三四番「深い悩みの世の中にも」もあり、「埴生の宿」が歌われる場面が印象的な『ビルマの竪琴』を著した竹山道雄氏が務めた駒場の地にふさわしいプログラムでした。

おかげさまで盛会となった第一四六回演奏会でしたが、裏方の一人としては、準備の段階から緊張がありました。オルガン演奏会は、東大駒場友の会に協賛いただいて、教養学部の教員有志からなるオルガン委員会が運営しているのですが、委員長であるヘルマン・ゴチェフスキ先生が昨秋から今夏まで研究休暇を取得されており、その間の委員長代理を仰せつかり、庶務を担当していたためです。音楽は好きですが、専門分野は平安古典文学、

第一四六回演奏会にて解説をされる高橋博子氏

果たして無事務め上げられるか、正直不安がありました。

昨年一二月に東京藝術大学教授である廣江理枝氏をお招きした第一四五回演奏会も、ゴチェフスキ先生ご不在の中での開催でした。このときも責任重大でしたが、本年三月には前田京剛先生と竹村文彦先生が定年退職され、ベテランの委員も減った中で、今回は特に責任が増していました。そのような中、現職の先生方に加えて、名誉教授の長木誠司先生が、高橋さんをご紹介くださったことをはじめ、多々お力添えくださいました。今回の演奏会の司会が長木先生であったことには、実はこのような背景があったのです。

また本年は、十数年に一度は必要とされるオルガンのオーバーホールを実施しました。ゴチェフスキ先生がドイツに発たれる前に行われる見込みであったものが、日程がずれ込み、今年二月末から三月初旬に実施する運びとなったのです。希少な機会に委員長代理が立ち会うこととなりましたが、長年にわたり調律を依頼している望月一郎氏がメンテナンスも担当してくださり、無事乗り越えることができました。すべてのパイプを磨き直したばかりの美しい音色を、第一四六回演奏会、そして四月の新入生保護者と教養学部長との懇談会で披露することができ、安堵しております。

演奏会で受付に立つと、駒場音楽振興基金にご協力くださる多くの方々に接する機会を得ますとともに、「高校生と大学生のための金曜特別講座」をいつも聞いています、とのお声をおかけいただくこともあり、大変ありがたく思っております。駒場の文化活動は、友の会の皆様のお支えがあってこそ成り立っています。改めまして深く御礼を申し上げます。オルガン委員会委員長代理の任はまもなく終えますが、一委員として今後も演奏会の準備に携わりますとともに、友の会事務局教員の一人としても活動を続けますので、引き続き何とぞよろしくお願い申し上げます。

（大学院総合文化研究科准教授）

金曜講座二〇二四年度・冬学期（Aセメスター）

東京大学教養学部主催「高校生と大学生のための金曜特別講座」は二〇二四年度・冬学期（Aセメスター）も会員の皆様に受講いただけることになりました。（ただし二〇二五年度・夏学期以降も継続して金曜講座を受講可能かどうかは現段階では未定です）

受講希望の方は　https://bit.ly/3Yzp2uD

または、左記QRコードのフォームより必要事項をご記入の上、お申し込みください。受付手続きに日数を要するため、直前にお申し込みいただいても講座の受講に間に合わない可能性もありますので、ご注意ください。

◆友の会主催行事のご案内

＊味覚のアトリエ@駒場

一一月～一二月頃予定

※現地開催予定。詳細は後日当会WEBサイトに掲載します。

＊秋の講演会

一一月二三日（土）予定

「東大発　運動能力の高め方―健康長寿を目指すからだの正しい使い方」

小林寛道氏（東大名誉教授）

※現地開催予定。詳細は後日当会WEBサイトに掲載します。

◆駒場博物館

駒場博物館では九月二八日から**「変わる高さ、動く大地―測量に魅せられた人々の物語―」**を開催いたします。

会期：二〇二四年九月二八日（土）～一一月二四日（日）

開館時間：一〇時～一七時

休館日：毎週火曜日　入館無料

（ご来場に関する最新情報を事前に駒場博物館ウェブサイトにてご確認ください）

http://museum.c.u-tokyo.ac.jp/index.html

◆第七五回 駒場祭

一一月二二（金）～二四（日）

詳細は駒場祭WEBサイト

https://www.komabasai.net/75/pre/

をご確認ください。

東大駒場友の会会報［第 43 号］2024(令和 6)年 9 月 15 日発行
東大駒場友の会　会長　木畑洋一

〒 153-8902 目黒区駒場 3-8-1 東京大学内
お問い合わせ等は、メールでのご連絡をお願いします
メール　info@tomonokai.c.u-tokyo.ac.jp
web サイト　https://tomonokai.c.u-tokyo.ac.jp/

デザイン・印刷　株式会社双文社印刷
https://www.sobun-printing.co.jp

会報のバックナンバーをインターネット上でご覧いただけます。
東大駒場友の会ホームページのトップ画面に「会報バックナンバー」というボタンがありますので、そこからお入りください。

爽やかな風に包まれてゆったりと
くつろぐことのできる

フランス料理
ルヴェ ソン ヴェール 駒場

東大駒場友の会会員カードをお持ちの方は食後のお飲み物（コーヒーまたは紅茶）が１杯おかわり可能です。
ご注文の際にご提示くださいませ。
［営業時間］ 11:00～14:30、17:00～21:00
Tel：03-5790-5931 / Fax：03-5790-1902
◎駒場ファカルティハウス内

＜一般会計＞

収　支　計　算　書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

（単位：円）

勘定科目		予算額	決算額	差異	備考
Ⅰ　事業活動収支の部					
1．事業活動収入					
(1) 会費収入	①通常会員会費収入	1,800,000	1,635,000	△ 165,000	
	②会友会費収入	7,000,000	7,292,000	292,000	
	③終身会員会費収入	400,000	593,000	193,000	
	会費収入計	9,200,000	9,520,000	320,000	※1
(2) 寄付金収入	①学生のための寄付金収入	3,500,000	2,820,000	△ 680,000	
	寄付金収入計	3,500,000	2,820,000	△ 680,000	
(3) 事業収入	①保護者と教養学部長との懇談会	0	0	0	
	②活動報告会	0	0	0	
	③食関連セミナー	100,000	89,500	△ 10,500	
	④秋の講演会	50,000	41,500	△ 8,500	
	⑤秋の文化イベント（父母向け）	50,000	0	△ 50,000	
	⑥カレンダー事業	160,000	149,760	△ 10,240	
	事業収入計	360,000	280,760	△ 79,240	
(4) その他収入	①受取利息収入	200	140	△ 60	
	②雑収入	1,800	4,000	2,200	
	その他収入計	2,000	4,140	2,140	
事業活動収入　計		13,062,000	12,624,900	△ 437,100	
2．事業活動支出				0	
(1) 事業費支出	①給料手当支出	2,000,000	1,090,000	△ 910,000	
	②臨時雇賃金支出	0	0	0	
	③福利厚生費支出	300,000	286,500	△ 13,500	
	④会議費支出	100,000	109,038	9,038	
	⑤旅費交通費支出	10,000	0	△ 10,000	
	⑥通信運搬費支出	800,000	788,465	△ 11,535	
	⑦消耗品費支出	100,000	195,735	95,735	
	⑧印刷製本費支出	800,000	996,294	196,294	
	⑨賃借料	50,000	70,400	20,400	
	⑩委託費支出	600,000	475,186	△ 124,814	
	⑪諸謝金支出	200,000	144,000	△ 56,000	
	⑫寄付支出	3,700,000	3,733,769	33,769	
	⑬雑支出	40,000	44,128	4,128	
	事業費支出計	8,700,000	7,933,515	△ 766,485	
(2) 管理費支出	①給料手当支出	1,000,000	586,757	△ 413,243	
	②臨時雇賃金支出	0	10,800	10,800	
	③福利厚生費支出	150,000	130,000	△ 20,000	
	④会議費支出	80,000	1,200	△ 78,800	
	⑤旅費交通費支出	2,000	0	△ 2,000	
	⑥通信運搬費支出	350,000	269,613	△ 80,387	
	⑦消耗品費支出	100,000	16,361	△ 83,639	
	⑧印刷費	150,000	160,308	10,308	
	⑨光熱水料費支出	200,000	121,712	△ 78,288	
	⑩事務室賃借料支出	220,000	215,876	△ 4,124	
	⑪会員証作成費支出	400,000	388,268	△ 11,732	
	⑫入会勧誘活動費支出	200,000	258,940	58,940	
	⑬会費等振込料負担金支出	750,000	819,056	69,056	
	⑭委託報酬支出	1,220,000	1,372,844	152,844	
	⑮雑支出	10,000	2,640	△ 7,360	
	管理費支出計	4,832,000	4,354,375	△ 477,625	
事業活動支出　計		13,532,000	12,287,890	△ 1,244,110	
事業活動収支差額		△ 470,000	337,010	807,010	
Ⅱ　投資活動収支の部				0	
1．投資活動収入				0	
投資活動収入　計		0	0	0	
2．投資活動支出				0	
(1)固定資産取得支出	①機器備品取得支出	0	199,900	199,900	
	②ソフトウエア取得支出	2,700,000	2,898,500	198,500	※2
	固定資産取得支出　計	2,700,000	3,098,400	△ 398,400	
投資活動支出　計		2,700,000	3,098,400	398,400	
投資活動収支差額		△ 2,700,000	△ 3,098,400	△ 398,400	
Ⅲ　財務活動収支の部				0	
1．財務活動収入				0	
財務活動収入　計		0	0	0	
2．財務活動支出				0	
財務活動支出　計		0	0	0	
財務活動収支差額		0	0	0	
Ⅳ　予備費支出		(1,000,000) 0	0	0	※2
税引前当期収支差額		△ 3,170,000	△ 2,761,390	408,610	
法人税、住民税及び事業税		70,000	70,000	0	
当年度収支差額		△ 3,240,000	△ 2,831,390	408,610	
前年度繰越収支差額		12,469,223	12,469,223	0	
次年度繰越収支差額		9,229,223	9,637,833	408,610	

※1　会費収入に含まれる前年度前受金額は通常会員700,000円、会友会員2,192,000円です。

※2　予備費使用額　固定資産取得支出-ソフトウエア取得支出　1,000,000円